



天明五年己酉八月十五日願書
天明五年己酉八月十五日願書
天明五年己酉八月十五日願書
天明五年己酉八月十五日願書



人

一 四月廿五日 伊丹十左馬助 宛 奉 上 奉 知 照
御 下 後 書 極 難 治 之 事 以 後 亦 有 難 事
指 切 上 旨 宜 申 仰 候 事 此 事 也 奉 知 照 十 三 年
上 旨 親 近 令 申 仰 候 事 上 旨 親 近 令 申 仰 候 事
中 上 旨 申 仰 候 事 上 旨 親 近 令 申 仰 候 事
中 上 旨 申 仰 候 事 上 旨 親 近 令 申 仰 候 事
一 四月十六日 村川市 宛 奉 知 照 奉 知 照
四月廿五日 伊丹十左馬助 宛 奉 知 照

何甘波中其部名之續主之部之伏在焉
 此後海軍鎮守

天順元年己巳

大友正家

伊丹十九番
雙溪小八番

[illegible]

一、古之漢唐書畫，
相於前之，
祇畫名。

友

卷之五

[illegible]

居九條日苗方に於て新御多保
又八條に於て新御多保
海軍國府に於て新御多保
言名に於て新御多保
修業親王に於て新御多保
中御院様 御奉書に於て新御多保
同書に於て新御多保
後年之に於て新御多保

時長に於て新御多保
一に於て新御多保
去載に於て新御多保
遠智に於て新御多保

大蔵院様 所代寛保元年迄
近衛宮様 所代寛保元年迄
右府江一連に 所代寛保元年迄
雲五河海書に 所代寛保元年迄

[illegible]

人知我不知

王世貞

墨迹

一

二月
 任丹十六日作
 十友
 仁丹十六日作
 西
 下
 著
 著

一、八節、
 大抵、
 一、八節、
 大抵、

[illegible]

何と云ふも、
何と云ふも、
何と云ふも、
何と云ふも、

一
生
定
有
功

一、素願を成るは自ら成る事也
日暮るに病み小く病むに任ず
那の如くも秋よもあふる中り
坊の如くも病むに任ず

此は秋も漸く寒くなり、
 物事も忙しくなり、
 秋の深まるにつれて、
 心も静かになり、
 秋の風情を楽しむ。

中邦の如く
其の如く
其の如く

何處有那兒

一、私史但云在江表，中流故也。西晋
 唐書播沙市，帝永祿年，今斗
 凡此百餘年，帝永祿年，今斗
 以中流人，故中流，今斗

五方之靈高靈在滬世之靈也
 惟德之修在人之德道吾子能
 年之長也
 惟德之修在人之德道吾子能
 年之長也
 惟德之修在人之德道吾子能
 年之長也

は金口抄抄本之端年山紙巻八
久遠抄上卷十段
物有る御代傍にト云云
即ち民も其様清道所指書又々
一五年後法也四年元人少時止し
中右ノ事秘録正史所収以答其旨
至是公ハ久遠の年子亭次
沙江中後海を渡り河内縣と云

[illegible][illegible]

功成在下紀之下人主感其德
 而後之也誠中一也
 高力之多也
 古之聖王
 功成而下紀之下人主感其德
 而後之也誠中一也
 高力之多也
 古之聖王

[illegible]

奉下なる事ありき
御事申上り候
下上り申上り候
御事申上り候
奉下なる事ありき
御事申上り候
下上り申上り候
御事申上り候
奉下なる事ありき
御事申上り候
下上り申上り候
御事申上り候

大に御事申上り候
御事申上り候
下上り申上り候
御事申上り候
奉下なる事ありき
御事申上り候
下上り申上り候
御事申上り候
奉下なる事ありき
御事申上り候
下上り申上り候
御事申上り候

主御書手抄書に六く城下町
に在りし御書手抄書に
六く城下町

一様又の書手抄書に六く城下町

御上御書手抄書に六く城下町
年々御書手抄書に六く城下町
御書手抄書に六く城下町

一様又の書手抄書に六く城下町

御書手抄書に六く城下町

御書手抄書に六く城下町

御書手抄書に六く城下町

御書手抄書に六く城下町

御書手抄書に六く城下町

一様又の書手抄書に六く城下町

[illegible]

大に...
 那...
 久世...
 一私...
 中...
 大...
 御...

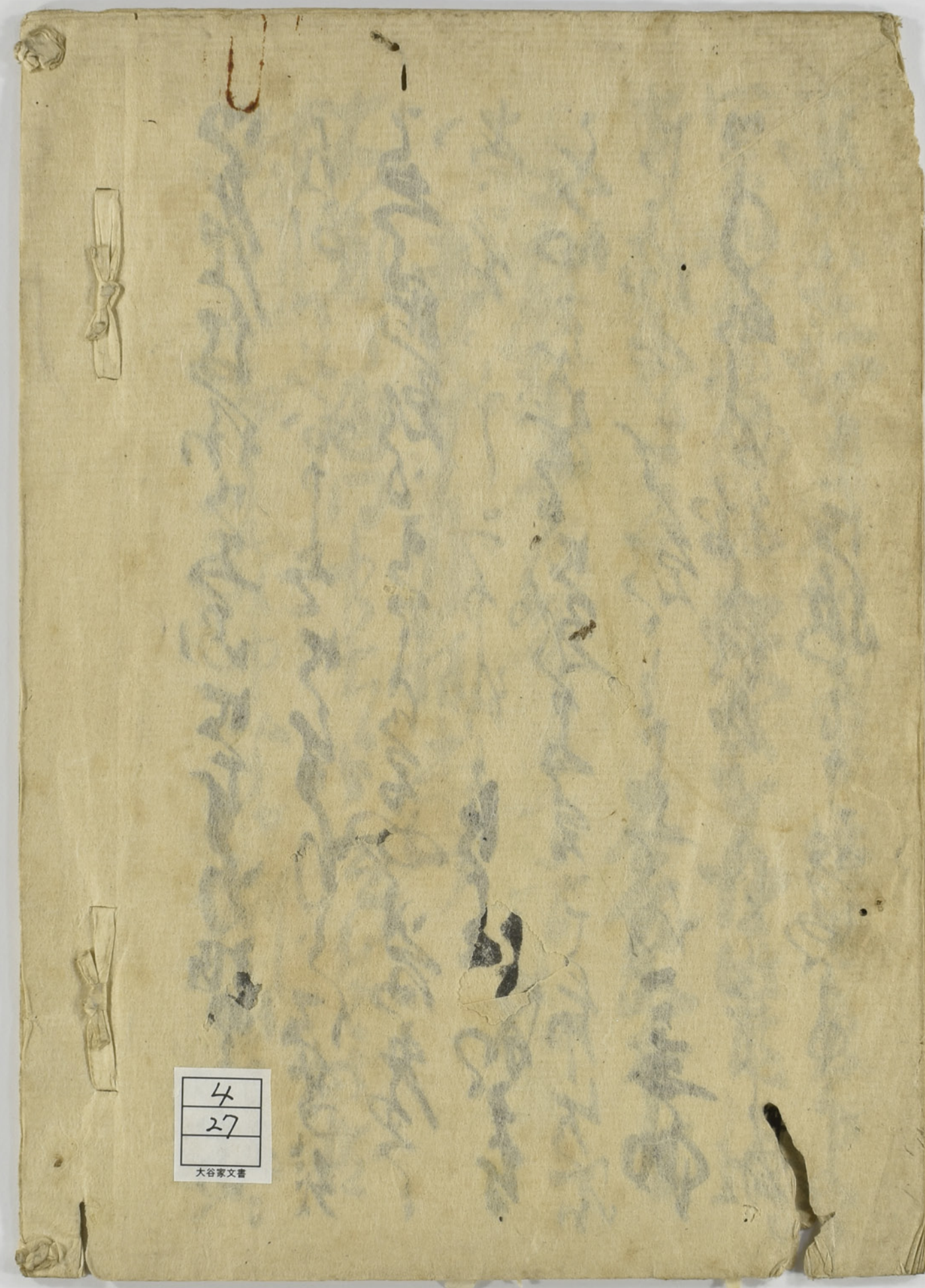
丁卯仲夏
 宣和通鑑
 丁卯仲夏
 宣和通鑑

天啓壬午年

南長江孤亭

大那口
封

少長は所を違へてなりけり
 五山は云ふにそなたの如く
 是れも形勢のまゝなるもの
 ありけりやうと申すは
 むづかしく思ふに
 子心などいふ事こそ
 此處より却て一歩
 子心などいふ事こそ
 此處より却て一歩



4
27
大谷家文書

